

三井ガーデンホテル京都駅前

Mitsui Garden Hotel Kyoto Station

No. 09-009-2020作成

新築
ホテル

発注者	三井不動産株式会社	カテゴリー				
設計・監理	佐藤工業株式会社一級建築士事務所	A. 環境配慮デザイン	B. 省エネ・省CO ₂ 技術	C. 各種制度活用	D. 評価技術/FB	
施工	佐藤工業株式会社 大阪支店	E. リニューアル	F. 長寿命化	G. 建物基本性能確保	H. 生産・施工との連携	
		I. 周辺・地域への配慮	J. 生物多様性	K. その他		

お茶を愉しむように、京の美を五感で感じるホテル

計画概要

本物件は、JR「京都」駅（中央口）から徒歩3分、「京都駅前バスのりば」からも至近で、国内外から京都へ観光に来るゲストの活動拠点としてはもちろん、新幹線を利用するビジネスでの滞在にも交通の利便性に変えられた立地にあり、全て2名以上で利用ができる全136室のホテルである。また、立地の利便性を活かし、京都市内の「三井ガーデンホテル」4つの同系列ホテルが連携した「バゲージサービス」の拠点となる役割を担うホテルである。

地域の特色を生かした魅力付け

—お茶を愉しむように、京の美を五感で感じるホテル—

日本ならではの茶室の考え方を現代風に解釈し、京都の落ち着いた風情を感じるデザインを随所に取り入れることで、駅前でありながらその喧騒を忘れさせる空間づくりを目指した。

<外観デザイン>

外観デザインコンセプトは、「おりなす」。

京都では多様な情景に出会うことができる。文化、自然、街、建築、人。四季の移ろいの中で様々な表情を見せ、豊かな情景をつくり、それらが繊細に織りなされていくことで、京都という特別な空間を形成している。高層部は、「織物」「黒皮鉄」をデザインモチーフとして、外壁の塗り壁仕上げをベースに、化粧垂直マリオン、水平ボーダーによる編み込みの表情、織りなしを具現化した。

低層部は、京町屋ファサードを、黒御影石水磨き、縦格子で表現し、様々なシーンに坪庭を散りばめた。これらを効果的に照明にて照らすことにより、京都の伝統的な京町屋の表情や風情が感じられる落ち着いた雰囲気演出した。



全景



正面ファサード



西側外庭（茶庭）

建物データ	省エネルギー性能	CASBEE評価	
所在地	BPI (モデル建物法) 0.87	B+ランク	
竣工年	BEI (モデル建物法) 0.79	BEE=1.0	
敷地面積	LCCO ₂ 削減 17%	2015年度版自治体提出	
延床面積			
構造			
階数			

<内観デザイン>

内観デザインコンセプトは、「THE TEA HOTEL」。茶道の心得でゲストをもてなし、日本ならではの茶の世界観を体感いただける憩いの空間。京都の旅の拠点となり他の同系列ホテルを継ぎ、ゲストとの結びの役割を担うことを目指した。この世界観を具現化するために3つのテーマを掲げデザインに落とし込んでいる。

- ①【円相】：ホテルを起点に様々な「縁」を結ぶことを願い禅の世界観に由来する「円相」を空間に散りばめた
 - ②【静けさ】：喧騒を忘れさせてくれる静寂感の創出
 - ③【茶庭】：自然と一体化する安らぎ感の創出
- ゲストとしてホテルを訪れた時、シーンが変化する度に、何かしらの「円」のモチーフが出迎えてくれる。満月を思わせるエントランスの「円相」、フロントバックの複雑に重なり合う「輪」、EVホールの「月の満ち欠け」を表すアート、客室の「円窓」など。また、フロントロビーに配置された茶器越しに垣間見える「茶庭」、ロビーから見える階段吹抜けに配置された照明に誘導されるように地下へ向かえば、階段下にはこの照明「水の輪」を受け止めるように水景・坪庭、その先にレストラン・ラウンジが広がり、地上の喧騒から隔した「静けさ」を演出している。

構造計画について

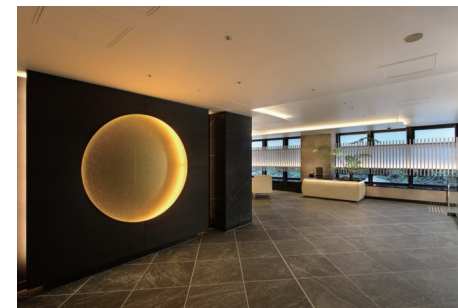
暴風時の風振動を考慮し、柱をCFT構造として建物自体の剛性を高めることで振動対策を行うとともに柱鉄骨の数量削減に取組んだ。



客室



ロビー・ラウンジ



エントランス



客室階 EVホール



1階 EVホール



フロント



水の輪



水景・坪庭



レストラン・ラウンジ

設計担当者

統括：植木勝重/建築：朝日裕之/構造：大嶋拓也/電気設備：渡辺英章/機械設備：萩原寿樹
インテリア：三井デザインテック株式会社/株式会社MIRACLE・KIDS

主要な採用技術 (CASBEE準拠)

- Q2. 2. 耐用性・信頼性 (暴風時の振動対策として剛性を高めたCFT構造)
- Q3. 2. まちなみ・景観への配慮 (京都の伝統的な表情や風情が感じられる雰囲気創出)
- LR1. 2. 自然エネルギー利用 (太陽光発電パネルを設置)
- LR1. 3. 設備システムの効率化 (LED照明を採用)
- LR2. 1. 水質源保護 (自動水栓や擬音装置などの省水型機器を採用)
- LR3. 2. 地域環境への配慮 (道路面に京都らしい和の演出として坪庭を配置)